千葉県と就職支援協定
UIJターンを促進

協定書を持つ佐々木学長（右）と森田千葉県知事

専修大学は3月6日、千葉県と就職支援協定を結んだ。学生、保護者に県内企業の求人情報や事業内容を発信し、合同説明会などを開催することで、UIJターンの就職促進、定着を図っていく。同様の協定を結ぶ首都圏の12大学が参加した合同締結式が千葉市内で行われ、本学からは佐々木重人学長が出席。森田健作知事と協定書を交換した。

森田知事の「工業団地の完成、道路整備も進み千葉県は一層発展していく。千葉の魅力を多くの人に理解してもらうためにも、大学の皆さんと協力していきたい」というあいさつの後、各大学から現状報告が行われた。

佐々木学長は4、5の両日、神田キャンパスで開かれた千葉県主催の「合同企業説明会」が盛況だったことを紹介。「本学の千葉県出身者は1134人いるが、Uターン率は20%と低い。新卒はもちろんのこと、卒業3年目までの人、30代以降の人たちのUターンも応援していきたい」と話した。

本学の就職支援協定の自治体は今回で31（30府県1市）となった。

就活スタート
生田・神田で支援プログラム

来春卒業予定者（現3年次生）の採用に向けた広報活動が3月1日に解禁され、就職活動が本格的にスタート。就職課では進路決定まできめ細かな支援プログラムを実施している。

2日には、生田キャンパスで「内定者による就職大相談会」が開かれた。旅行、金融、運輸などに内定した4年次生7人が、3年次生に就活の苦労点や成功のポイントなどを話したほか、エントリーシートの書き方、企業選びのポイント、参考文献など具体的なノウハウをアドバイスした。

宮本和弥さん（経営3）は「先輩から直接話を聞くことができ、参考になった。専大生としての強みをどう生かしたらいいのか、具体的に教えてもらえた」と話した。

1日と4～7日には、神田キャンパスで学内企業説明会があった。金融やメーカーなど約90社が参加。会社概要や採用スケジュールなどを説明した。参加企業のほとんどが専大生の採用実績があり、今後も採用に意欲的。リクルートスーツ姿の学生は、真剣な表情で説明に聴き入っていた。

内定者による就職大相談会で先輩の話を聞く３年次生

神田キャンパスで開催された学内企業説明会

就職課から

〈3年次生へ〉就職活動が本番を迎えました。大学でも企業と出会える機会があります。3月27日（水）まで、向ケ丘遊園駅北口すぐのサテライトキャンパスで学内企業説明会を開催します。30分の説明会を5回行いますので、一日で最大5社の説明を受けることができます。学内の説明会に来校する企業は、専大生を採用したいと強く考えています。1社でも多く説明を聴きましょう。納得のいく就職を目指して、大学をフル活用してください。

会社説明会や選考などの予定が立て込んでいると思います。スケジュール管理はもちろん体調管理を怠らないようにしましょう。

〈4年次生へ〉卒業後も就職課を利用できます。就職相談のほか、利用手続きをすればS-netの利用も可能です。第二新卒者や既卒者を積極的に採用している企業もあります。諦めずに就職活動を続けましょう。

UIターン知事メッセージ

宮崎県知事　河野俊嗣

みやざきで暮らし、みやざきで働こう！

プロ野球やJリーグなど多くのスポーツ合宿が行われる「スポーツランドみやざき」。本県で合宿を行うチームが日本一やリーグ優勝等の好成績を挙げ、「結果の出る」「縁起の良い」宮崎合宿との評判です。

国内外の代表チーム合宿も受け入れていて、今年、日本で開催されるラグビーワールドカップでは日本代表とイングランド代表の強化合宿が、また、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、ドイツの陸上チームとカナダのトライアスロン・パラトライアスロンチームの事前キャンプが行われます。

また、東京オリンピックの選手選考を兼ねた「2019 ISAワールドサーフィンゲームス」が今年9月に開催されるなど、合宿や大会を通じて、宮崎県の優れたスポーツ環境が世界に認められつつあります。

一方「食」の面では、全国第5位の農業産出額を誇り、日本一の宮崎牛は、昨年、今年と2年続けてアカデミー賞授賞式後のパーティーで提供されました。本格焼酎の出荷量やキャビア生産量も日本一。豊富で高品質な海の幸・山の幸に恵まれた、わが国を代表する食糧供給基地です。

さらに、本県は、通勤・通学時間の短さや、物価の安さ、合計特殊出生率、いい子どもが育つ都道府県ランキング、共働き世帯の夫の家事時間の長さなど、それぞれ全国トップクラス。穏やかで優しい県民性もあいまって、暮らしやすく、子育てのしやすい環境に恵まれています。

こうした本県の魅力を、私は5つの形容詞「暖かい」「美味しい」「楽しい」「安い」「優しい」で表現しています。

さらに、市街地に近接した宮崎ブーゲンビリア空港は国内外の航空路線が充実し、高速道路網の整備進展や、きめ細やかな行政サポート等を背景に、ここ5年間の企業立地件数は200件を超え、魅力的な働く場が大きく増えています。

暮らしやすく、働きやすい宮崎へ大学生の皆さんのUIJターンを促進するため、「宮崎ひなた暮らしUIJターンセンター」を東京有楽町に設置し、県内就職に関する相談対応を行っているほか、奨学金の返還支援などにも取り組んでいます。

専修大学におかれては、建学の精神「社会に対する報恩奉仕」に基づき、次々と優秀な人材を輩出しておられます。ぜひ、まずは観光で訪れるなど宮崎の魅力を広く知っていただき、一人でも多くの皆さんが宮崎で就職し、活躍されることを大いに期待しています。

【CHOICE! みやざきではたらく～宮崎を第一志望に～】http://choice-miyazaki.com/

野球人生を語る
OB河野さん

専大野球部OBの河野和洋さん（平9商）が3月7日、都内で講演し自らの野球人生を語った＝写真。

河野さんは明徳義塾高（高知県）時代の1992年、夏の甲子園で星稜高（石川県）の松井秀喜さん（元ヤンキース）を、5打席連続敬遠したことでも知られる。超高校級スラッガーの打撃を期待したスタンドのファンからやじが飛び、勝利を収めた明徳高はバッシングを浴びた。

河野さんは当時の心境を「勝ちにこだわる監督からの指示に従った。自分も負けるために野球をやってきたのではない」と振り返る。

専大では長打力を持つ外野手として、キャプテンを務めた。卒業後広島カープに入団した同期の黒田博樹さん（平9商・元ドジャース）は副キャプテンだった。河野さんはドラフト候補になったがかなわず、社会人野球を経てアメリカに渡り独立リーグのチームで活躍。さらに上を目指したが果たせなかった。

苦労の連続だったが「好きな野球をやめるつもりはまったくなかった」と話し、帰国後は千葉県社会人野球のクラブチームの監督兼選手に。2月に千葉県二部リーグの帝京平成大学硬式野球部のコーチに就任した。

「野球を通じた出会いからさまざまなことを学んだ。これからは学生たちと一緒に一歩一歩前に進んでいく」と笑顔で締めくくった。

Stop Campus Harassment!
ハラスメントのないキャンパスへ

「仮定法過去」から学んだこと

人間関係は喜びをもたらしてくれるが、時にはトラブルの源ともなる。トラブルが生じると、私たちは感情的になり、つい相手を傷つけハラスメントに結びつくような言動をとってしまいがちである。理性を取り戻すにはどうしたらよいのか。その答えは、深呼吸をし、時には一晩寝るなどして、少々「時間を置いて」、「相手の立場に立って」みようとすることだと思う。

先日、本学のある大学院生が高校の英語教員の採用試験を受けたところ、模擬授業を行うこととなった。高校から指定された課題は仮定法過去を教えるというものだった。仮定法過去とは現在の事実とは反することを表すものである。私が高校で学んだ例文の一つは、If I were you, I would go abroad.（もし私があなただったら外国に行くのに）というものだった。現在のことを述べているのにwereやwouldといった過去形を用いている。なぜか。大西とマクベイの著書（2012年）によると、それは「現実離れ」を表現するために、現在から離れた過去のものとして事態を眺めてみようという「距離感」を出したいという意識が働くからであると説明している。

相手の立場に立つ、まさにIf I were youという気持ちになるには、「時間的な距離」が必要なのである。高校の授業では、If I were a bird, I would fly to you.という例文も学んだが、「鳥になんてなれっこない」とつぶやきながら奇妙な例文だと思っていた。しかし、後に、「あなたのもとに飛んでいくのに」と、相手を思い慕う気持ちを表したこの例文も人間関係のあり方を伝えていると気づいた。

ちなみに、先の大学院生は練習の成果が実り、採用試験での合格を「反事実」ではなく確かな「現実」のものとすることができた。

（キャンパス・ハラスメント対策室員・上村　妙子）